

大阪公立大学  
大学院医学研究科  
血液腫瘍制御学

(旧 臨床検査医学)

同門会  
だより  
第13号  
(2026)

【抜粋版】



特集  
若草第一病院

若草ができる貢献  
～役に立つ関連病院を目指して～



大阪公立大学大学院医学研究科  
血液腫瘍制御学（旧 臨床検査医学）  
同門会だより 第 13 号

【抜粋版】

## 目次

- (1) 新同門会長挨拶（太田健介先生）
- (2) 教授就任挨拶（中前博久先生）
- (3) 特集 若草第一病院（高桑輝人先生）  
「若草ができる貢献 ～役に立つ関連病院を目指して～」
- ~~(4) 新入局者挨拶 4名~~
- ~~(5) ASH 報告（森口 慎先生）~~
- (6) 業績報告（2025 年 1 月から 12 月）
  - ①大阪公立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学
  - ②大阪市立総合医療センター 血液内科
  - ③済生会中津病院 血液内科
  - ④泉大津急性期メディカルセンター 血液疾患センター
  - ⑤大阪鉄道病院 血液内科
  - ⑥医療法人 LIGARE 血液内科・太田クリニック心斎橋
  - ⑦社会医療法人若弘会 若草第一病院 血液内科
- ~~(7) 同門会費 ご協力のお願い~~
- ~~(8) 会計報告~~
- ~~(9) 2025 年同門会費納入者 一覧~~

## 同門会誌 第13号に寄せて ～中前博久教授のご就任を迎えて～

医療法人 LIGARE 血液内科太田クリニック・心斎橋  
太田 健介

昨年(2024)の4月27日に開かれた日野教授の退官送別会でもご紹介させていただきましたが、わが大阪公立大学の血液内科診療は1975年、当時の臨床検査医学教室(奥田清教授)に巽典之先生が赴任されたことから始まりました。当初は、附属病院に血液内科病床がなかったため、若弘会病院、府中病院、まちだ胃腸病院、東住吉森本病院などの関連病院を中心に血液診療を大きく展開しましたが、1993年に新附属病院が竣工されたのを契機に、大学病院にも念願の血液内科病棟が新設されました。1994年に巽典之先生が、次いで2002年に日野雅之先生が教授に就任され、その間、血液内科は造血幹細胞移植拠点病院としても一大発展を遂げました。そして、1975年の血液診療開始からちょうど50年目にあたる2025年7月、中前博久先生が、奥田先生から数えて4代目の血液内科教授に就任されました。

中前教授のご就任からまだ日は浅いですが、公大血液グループの先生方が役割者となる研究会が急激に増えてきたことは皆様も実感しておられると思います。さらに、今号からの「同門会だより」には、各関連病院の、研究会での発表も含めた業績リストを掲載させていただくこととなりました。これは中前教授のご意向で、関連病院の「見える化」と「活性化」が目的です。

ご存知のように、昨今、全国の急性期病院の6割以上が赤字経営を余儀なくされており、今後、大規模な病院の淘汰(整理統合)がさらに加速するものと予想されます。生き残るためには、より多くの患者さんと優秀なスタッフを集め、また、経営を徹底的に効率化、合理化することが求められます。先述のように公大血液グループには、関連病院がグループ発展の先鋒を担ってきた歴史があるため、自然に関連病院間の相互連携の土台が構築されており、実はそれが他大学には追従できない長所になっているのだと思います。この長所を活かして、各関連病院がそれぞれの特色を発揮しつつ精力的に診療や情報発信に取り組み、また、グループ内で相互に助け合う、強固な病一病、病一診連携のモデルを構築できれば、自然に患者さんと若手医師が集まってくるようなポジティブな流れができると思います。もしそうなれば、昨今の医療に対する大きな逆風の中でも、グループとしてさらに大きな発展を遂げるものと確信しております。

## 「教授就任にあたって ― 次世代に受け継がれる学問と医療を創る」

大阪公立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学 教授

中前 博久

医学部において、伝統は極めて重要です。医学部の歴史とは単なる過去の記録ではありません。それは、時代の要請に応え続けてきた人々の営みの積層であり、学問と医療の精神が脈々と受け継がれてきた証でもあります。本学の源流は、第二次世界大戦の最中である1944年（昭和19年）4月に設立された大阪市立医学専門学校にあります。いわゆる帝国大学と比べれば、その歩みは決して長いものではありません。しかし、伝統とは年数の長短で測られるものではなく、何を志し、何を次代へ手渡そうとしてきたかによって形づくられるものだと私は考えています。伝統を築くことは、一世代で成し遂げられるものではありません。百年単位の時間を要する、極めて困難な事業と言えます。

医師であり政治家でもあった後藤新平は、「財を遺すは下、仕事を遺すは中、人を遺すは上」と述べています。この言葉は、私たち医療者、教育者にとって、今なお深い示唆を与えるものです。大阪市立大学医学部附属病院に診療科として血液内科が設立されたのは1993年4月で、私たちのグループが最初の同種造血幹細胞移植を行ったのは前年の1992年のことでした。最初に同種造血幹細胞移植を行った帝大と比べれば、およそ20年遅れての出発でした。しかし、その遅れを言い訳にすることなく、努力を積み重ね、2013年には国内で3つの造血幹細胞移植推進拠点病院の指定を厚生労働省から受けるに至りました。日野雅之教授のご指導のもと、実地臨床のみならず、数多くの研究や治験にも取り組み、これまで一定の成果を社会に還元することができたと自負しています。そして今、私たちに求められているのは「仕事」を超えて、「人」を遺すことだと感じています。若く、能力に満ちた先生方には、どうか本学という枠にとどまらず、大きな空へと羽ばたいてほしい。それぞれの場所で力を発揮し、やがてまた新たな縁を運んできてくれることを心から願っています。

今の医局人事は、もはや教授トップダウンで動く時代ではかなり以前からなくなっております。関連病院には、医局員が「そこで働きたい」と自然に思える魅力ある施設であってほしい。そのためには院内の業績だけに閉じこもるのではなく、院外にも光を放ち、いわば“外弁慶”にもなって存在感を示していただきたいと思っております。

また、本学は 2022 年に市立から大阪公立大学となりました。したがって、大阪市の血液内科診療のみならず、大阪府全体の医療に責任を持つ立場となりました。血液内科専門医がほとんど存在しなかった東大阪市において、石切生喜病院に加え、新たに若草第一病院に血液内科が設立され、約 80 万の人口を支える二つの拠点が生まれました。我々の医局にとって、これはこれまで成し得なかった大きな挑戦であり、同時に大きな希望でもあります。今後の発展に期待したいと思います。

医局という組織は、企業のように全員が同じビジョンを掲げ、足並みを揃えて進む場所ではないと思っています。決して貨幣資本主義的に動いているわけでもない。むしろ、「つながれる人どうしが、自然につながっていく」—そのような不思議で、有機的な生態系に近い存在だと私は考えています。私たちの未来は、きっと明るい。そう信じています。信じ合える仲間とともに、静かに、しかし力強く歩みをこれからも進めていければと思っています。

---

## 特集

### 【関連病院施設紹介】

#### 若草ができる貢献 ～役に立つ関連病院を目指して～

---

社会医療法人若弘会 若草第一病院 血液内科 高桑輝人

2024 年 4 月、若草第一病院に血液内科が誕生し、私が 41 歳という年齢で診療部長を拝命しました。それは単なる 1 つ新しい診療科が新設されたということだけではなく、「地域医療の中で若草が何をすべきか」「関連病院として大学にどのように貢献できるのか」という問いかけに対する答え探しの始まりでもありました。

急性期病院の縮小、医師の働き方改革、物価高騰、そして高齢者人口の増加と医療を取り巻く環境は大きく変化しています。これからの医療は大学病院や高度急性期病院だけで支え続けることはできず、地域医療機関の役割がより一層大きくなることは間違いありません。本稿では、このような時代の流れにのって、若草で何ができるのか考えてみたいと思います。

## 1. 若弘会と大阪市立大学（大阪公立大学）血液内科のつながり

若草第一病院に血液内科が誕生したことは偶然ではありません。若弘会と大阪公立（市立）大学血液内科とのご縁は先々代教授の巽典之先生の時代までさかのぼります。1979年、当時の第三内科で血液診療を開始した際に若弘会病院を含む関連病院で血液診療が展開されました。その後、若弘会病院はわかこうかいクリニックへと変わり、血液診療は行われなくなりましたが、若弘会と大阪市立大学との心の関係は途切れることはありませんでした。そして2024年、再びその絆が具体的な形となったのです。若草第一病院は大学から物理的な距離としては決して近くありません。しかし、「距離は遠くても、心は近く」ありたいと考えています。大学病院は高度急性期医療、移植医療、最先端治療を担う中核施設です。一方で、高齢患者の継続治療、合併症管理、地域連携の実践など、大学病院のみでは十分に手が回らない領域があります。若草の役割は、大学の“延長線”にある医療を担うことだと認識しています。大学が「攻め」なら、若草は「支え」。高度治療の前後を支え、患者さんを地域で受け止め、そしてまた必要な時に大学へ紹介する。大学の診療・教育・研究を支える「実働部隊」であることこそ、私たちの使命だと考えています。

## 2. 院内活動 — 小さな病院でも、質は高く

若草第一病院の血液内科はゼロからのスタートでした。紹介患者もいない、既存の血液疾患患者もいない状態での始まりでしたが、診療を開始し始めてから想像以上にニーズが大きいことが分かりました。これまで東大阪市では石切生喜病院と市立東大阪医療センターの2施設でしか血液診療を行うことができませんでした。診断がつかずに困っている患者、治療を受けたいが遠方への通院が難しい高齢者、高度急性期医療での治療を終えた後の継続診療など、地域は血液内科を望んでいたのです。中河内地区の血液疾患が若草に集まるようになり、PNHやTTP等の希少疾患も経験できるようになりました。

開設から1年半で骨髓検査は300件弱、最近では月に30件を超えることも珍しくなくなってきました。血液内科病床は5床で開始しましたが、すぐに足りなくなり、1年以内に20床へ増床しました。現在はそれでも満床率が100%を下回ることはほぼなく、概ね140~160%程度で入院診療を行っております。当初はアイソレーターを用いて免疫不全患者の診療を行っていましたが、2024年12月には無菌室が6床稼働し、2025年12月には10床(個室6床、総室4床)へ増床しました。無菌治療室管理加算1、2はそれぞれ3,000点、2,000点であり、10床を365日フル稼働させることができれば、年間約9,500万円の診療報酬効果を生み出し、経営面でも法人へ大きく貢

献することができます。

検査課、輸血体制の整備も重要な課題でした。血液内科開設前は末梢血の機械分類すら実施されることが多くありませんでした。血液像なくして血液診療を実施することは不可能であり、機械分類から目視分類へ、さらに院内で骨髓像の目視分類が可能な体制を構築してきました。輸血使用量も当然ながら飛躍的に増加し、不規則抗体が出現する症例も珍しくなくなり、交差適合試験の複雑化や緊急輸血対応の必要性も増しました。そのような中で、安全かつ円滑に業務を遂行するため、検査課との連携を強化し、情報共有体制の整備、教育体制の見直しを進めてきました。



診療の質を高めるためには教育活動も重要です。2025年2月には日本血液学会認定専門研修教育施設から専門研修認定施設へと格上げとなり、専攻医の先生が不安なく勤務できる体制を構築しました。毎週のカンファレンスでは症例を共有し、新規治療を含めた治療方針を徹底的に議論することで、一人で抱え込まない診療体制を心がけています。また月に1回はマルク検討会を行い、日頃悩んでいる骨髓像について目合わせを行っています。さらに看護師、薬剤師、検査技師、リハビリスタッフ、事務職員まで部門横断的な教育活動も継続しています。毎週の勉強会では最新の診療情報の共有を行い、定期的な病棟勉強会では、骨髓抑制、悪心・嘔吐、血管外漏出、IRR、下痢、味覚障害など、日常診療で直面するテーマを繰り返し共有しています。日野先生による毎月の保険セミナーでは単に疾患の診断や治療だけでなく、医療を持続可能

にするための診療報酬制度についても多職種で学ぶ機会を設けています。



これらの活動は規模の大きい病院では当たり前に行われていることばかりです。限られた人員、限られた時間、限られた資源の中で、それを継続することは決して容易ではありません。「普通を続けることは普通ではない」のです。小規模であっても、本気で取り組めば変えられるということを日々実感しています。ゼロから始まった血液内科は、いまや病院全体の診断力・治療力・教育力を底上げする存在へと変わりつつあります。また、若草が強くなることは、大阪公立大学血液内科の力を強くすることにつながると信じています

### 3. 院外活動 — 若草から発信し続ける打ち上げ花火

若草第一病院に赴任してまず始めたのは近隣施設への挨拶周りで、紹介を待つのではなく、血液内科を知ってもらうことから始めました。血液内科を専門としない先生にとって血液疾患は非常に遠い存在に思えるかもしれませんが、しかし、日常診療で遭遇する軽微な血球異常の中に造血器疾患が潜んでいることも少なくありません。必ずしも希少疾患ばかりではないのだということを理解して頂かなければなりません。そのために、医師会を通じた包括的な講演や、定期的なコラム作成で診断のポイント

や紹介のタイミングを分かりやすく伝えるように心がけています。その結果なのか、赴任してから最初の8か月間で64施設から計127症例のご紹介を頂くことができました。ご紹介頂いた症例は「血液疾患は若草で、併存疾患は引き続き開業医の先生方で」を心がけるようにしています。この役割分担が地域医療にとって重要であり、患者の満足度向上にも寄与していると考えます。

私は2018年5月、血液内科太田クリニック・心斎橋が開院したことを契機に、大学在籍中の2021年より、先代の日野教授の指示を受けて多発性骨髄腫を中心とした地域連携パスを作成し、活用してきました。若草の山中院長が当時クリニカルパス学会の理事長を務められていたこともあり、若草に赴任してからもその仕組みを積極的に引き継いでおります。さらに、この活動を大学、若草、太田クリニック、大阪国際がんセンターの4施設で、医療者間コミュニケーションプラットフォーム「Dr2G0®」を用いた電子化地域連携パスの研究として発展させました。この研究は2026年4月に『臨床血液』へ掲載予定です。

若草の診療や取り組みを広く知って頂くことは関連病院としての責務の一つであり、その手段として講演活動は非常に重要だと考えております。2024年4月から2026年2月（執筆時点）までに、100講演以上を行いました。講演活動は打ち上げ花火のようなもので、すぐに消えてしまい、業績として残り続けるものではありません。しかし、連続して打ち上げ続ければ空はずっと明るく輝き、若草を照らしてくれます。講演会は病院を宣伝できる場もありますが、それ以上に重要なのは全国の先生方と出会い、意見交換し、良い刺激を受け続けることができることです。

学術活動も重要だと考えております。実際、2024年10月～2025年10月の1年間で29演題を報告しました。また、関西骨髄腫フォーラムの参加施設として積極的に症例登録を行い、2025年の年間症例登録数は2位となりました。W-JHS研究にも参加し、残念ながら症例登録1番目は逃しましたが、全国で2番目の症例を登録することができました。大阪公立大学関連のONE TEAM試験にも積極的に参加し、すでに6例を登録しています。

これらの講演活動、学術活動によって最新の知見に触れ、他施設の先生方と議論し、自施設の診療を見直す機会を得ることが出来ます。その積み重ねが若草の医療の質を向上させ、患者へ還元することができると考えます。



#### 4. 今後の展望 — 変わりゆく医療提供体制の時代において

今後、急性期病院は確実に縮小していきます。政府は「地域医療構想」に基づき、2040年を見据えた医療提供体制改革を進めています。高度急性期・急性期病床の適正化と、回復期機能の充実が政策として掲げられ、医療資源の再配分が進められています。加えて、医師の働き方改革により時間外労働は原則年960時間（A水準）へと制限され、マンパワーに依存した体制は維持できなくなります。医療費適正化の流れも含め、これまでと同じ構造のまま医療を続けることは不可能です。「治す医療」と「支える医療」の両立が不可欠となります。その潮流の中で、若草第一病院は、大学から回復期・慢性期への橋渡しをする役割を担いたいと考えています。若弘会グループには、回復期・慢性期を担うわかくさ竜間リハビリテーション病院、介護老人保健施設である竜間之郷、訪問診療を担うわかこうかいクリニックを有しています。この法人内連携は、医療提供体制改革の時代において持続可能な診療を実現するために不可欠であり、今以上にシームレスな連携を進めていかねばなりません。

“役に立つ関連病院”とは、大学が安心して患者を任せられ、地域が信頼して紹介でき、関連外からも認知され続ける存在であることだと考えます。若草第一病院血液内科は、診療、教育、研究、学術、広報、地域連携のあらゆる形で大阪公立大学同門会の共創の輪の中で歩み続けたいと考えています。

# 【2025 年業績報告】

## ①大阪公立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学

### 英文論文

1. Okada Y, Tachi N, Shimazu Y, Murata M, Nishiwaki S, Onishi Y, Jinguji A, Uchida N, Tanaka M, Hasegawa Y, Ito A, Kako S, Nishida T, Onodera K, Sawa M, Nakamae H, Toyosaki M, Kanda Y, Onizuka M, Fukuda T, Ohbiki M, Atsuta Y, Arai Y, Tachibana T. Comparing de novo chronic myeloid leukemia in blastic phase with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Cancer*. 2025 Jan 1;131(1):e35627.
2. Kosugi H, Fujisaki T, Iwasaki H, Shinagawa A, Iida H, Jo T, Kubonishi S, Morita Y, Nakashima Y, Onodera K, Suzuki K, Suzuki T, Tamai Y, Usuki K, Yokota A, Yanaga H, Hayakawa J, Midorikawa S, Nishio M, Suda M, Matsue K. A phase 2 clinical trial of luspatercept in non-transfusion-dependent patients with myelodysplastic syndromes. *International Journal of Hematology*. 2025 Jan;121(1):68-78.
3. Chang C, Suzuki T, Liang Y, Tong H, Usuki K, Liu Q, Wu Y, Fujisaki T, Han B, Huang R, Morita Y, Miao M, Nakashima Y, Tian YO, Pu J, Aggarwal D, Pozharskaya V, Shi W, Xiao Z, Mitani K. Safety and efficacy of luspatercept in treating anemia associated with myelodysplastic syndrome with ring sideroblasts in Asian patients who require red blood cell transfusions: a phase II bridging study. *Therapeutic Advances in Hematology*. 2025 Feb 20;16:20406207251321715.
4. Tamaki M, Kawamura S, Takano K, Nakamae H, Doki N, Ohgashi H, Maruyama Y, Ota S, Hiramoto N, Eto T, Yoshihara S, Matsuoka KI, Masuko M, Onizuka M, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Yanagisawa R, Yakushijin K, Nakasone H. Female-to-male allogeneic transplantation affects outcomes differently according to the type of haplo-transplantation. *Cytotherapy*. 2025 Feb;27(2):213-221.
5. Harada K, Kanda J, Hirayama M, Wada F, Uchida N, Tanaka M, Nakamae H, Takunaga M, Ishiwata K, Onizuka M, Hasegawa Y, Fukuda T, Eto T, Kurita N, Kawakita T, Jinguji A, Ishimaru F, Atsuta Y, Nakasone H. Comparison of Nonrelapse Mortality After Haploidentical Hematopoietic Stem Cell Transplantation With Post-transplant Cyclophosphamide Versus Single Umbilical Cord Blood Transplantation in Hematologic Disease. *Transplant Cell Ther*. 2025 Feb;31(2):103.e1-103.e13.
6. Mitsuyuki S, Shimomura Y, Mizumaki H, Yanada M, Mizuno S, Uchida N, Doki N, Ito A, Tanaka M, Nishida T, Katayama Y, Yoshihara S, Eto T, Takada S, Ota S, Toyosaki M, Hasegawa Y, Nakamae H, Kawamura K, Onizuka M, Fukuda T, Ohbiki M, Atsuta Y, Konuma T. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in adult acute myeloid leukemia with t(16;21)(p11;q22)/FUS::ERG. *Leukemia*. 2025 Feb;39(2):495-498.
7. Yamasaki S, Yanada M, Araie H, Fukuda T, Kanda Y, Tashiro H, Uchida N, Ozeki K, Ota S, Onishi Y, Doki N, Oyake T, Takada S, Sakurai M, Kondo Y, Nakamae H, Kawakita T, Onizuka M, Atsuta Y, Konuma T. Comparative analysis of allogeneic hematopoietic cell transplantation in patients with therapy-related and de novo acute promyelocytic leukemia A retrospective study. *Sci Rep*. 2025 Mar 31;15(1):10967.
8. Shimomura Y, Kitamura T, Yanada M, Mizuno S, Kondo T, Yoshihara S, Tanaka M, Inai K, Katayama Y, Onizuka M, Fukuda T, Nakamae H, Kurokawa M, Yano S, Nara M, Masuko M, Miyakoshi S, Eto T, Yoshimitsu M, Ishimaru F, Kanda J, Atsuta Y, Konuma T. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation using reduced intensity conditioning regimen for patients with acute myeloid leukemia not in complete remission. *Cytotherapy*. 2025 Mar;27(3):316-323.
9. Tomori S, Morishima S, Kato K, Nakasone H, Nakano N, Eto T, Kawakita T, Suehiro Y, Miyazaki Y, Uchida N, Sawayama Y, Mori Y, Nakamae H, Nagafuji K, Uehara Y, Doki N, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Yoshimitsu M; JSTCT ATL Working Group and JSTCT Transplant Complications Working Group. Low Survival Due to Higher Risk of Relapse and Nonrelapse Mortality After Allogeneic HSCT in ATL Compared with AML and ALL. *Transplant Cell Ther*. 2025 Apr;31(4):253.e1-253.e14.
10. Wada F, Iwasaki M, Hirayama M, Kawamura K, Kaida K, Doki N, Nakamae H, Hasegawa Y, Fukuda T, Eto T, Hiramoto N, Maruyama Y, Nagafuji K, Ota S, Ishikawa J, Ando T, Ichinohe T, Atsuta Y, Nakasone H, Kanda J. Donor selection in T-cell-replete haploidentical donor peripheral blood stem cell transplantation. *Leukemia*. 2025 Apr;39(4):951-961.
11. Ikeda S, Hasegawa K, Kogoe Y, Arimori T, Kawamoto R, Wibowo T, Yaga M, Inada Y, Uehara H, Matsubara M, Tachikawa M, Suga M, Kida S, Shibata K, Tsutsumi K, Fukushima K, Fujita J, Ueda T, Kusakabe S, Hino A, Ichii M, Hirose A, Nakamae H, Hino M, Nakao T, Inoue M, Yoshihara K, Yoshihara S, Ueda S, Tachi T, Kuroda H, Murakami K, Kijima N, Kishima H, Igashira E, Murakami M, Takiuchi T, Kimura T, Hiroshima T, Kimura T, Shintani Y, Imai C, Yusa K, Mori R, Ogino T, Eguchi H, Takeda K, Oji Y, Kumanogoh A, Takagi J, Hosen N. CAR T or NK cells targeting mismatched HLA-DR molecules in acute myeloid leukemia after allogeneic hematopoietic stem cell transplant. *Nat Cancer*. 2025 Apr;6(4):595-611.
12. Taniguchi E, Yamanaka-Takaichi M, Oshimo T, Nakashima Y, Tsuruta D. Classic Hodgkin lymphoma in a patient treated with ixekizumab for generalized pustular psoriasis. *European Journal of Dermatology*. 2025 Jun 1;35(3):236-238.
13. Hagino T, Ikegame K, Tanaka H, Kanda Y, Kaida K, Fukuda T, Kondo Y, Sato M, Doki N, Nakamae H, Matsuoka KI, Mori Y, Sano H, Eto T, Kawakita T, Hashii Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J; HLA Working Group of Japanese Society for Transplantation, Cellular Therapy. Engraftment outcome of patients with anti-HLA antibodies in HLA-mismatched peripheral blood stem cell transplantation. *Int J Hematol*. 2025 Jun;121(6):848-856.
14. Konuma T, Fujioka M, Fuse K, Hosoi H, Masamoto Y, Doki N, Uchida N, Tanaka M, Sawa M, Nishida T, Ishikawa J, Asada N, Nakamae H, Hasegawa Y, Onizuka M, Maeda T, Fukuda T, Kawamura K, Kanda Y, Ohbiki M, Atsuta Y, Itonaga H. Clinical effects of granulocyte colony-stimulating factor administration and the timing of its initiation on allogeneic hematopoietic cell transplantation outcomes for myelodysplastic syndrome. *Transplant Cell Ther*. 2025 Jun;31(6):388.e1-388.e14.
15. Iwasaki M, Kanda J, Tanaka H, Ikegame K, Shindo T, Kawase T, Yoshihara S, Doki N, Nakamae H, Eto T, Tanaka T, Ara T, Hiramoto N, Kondo Y, Matsuoka KI, Ando T, Shono K, Nagafuji K, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Murata M, Morishima S. Impact of HLA Epitope Matching on Outcomes in Haploidentical HSCT With Distinct GVHD Prophylaxes. *Transplantation*. 2025 Jul 1;109(7):1241-1250.
16. Nagayama T, Fujiwara SI, Nishiwaki S, Wada F, Uchida N, Tanaka M, Sakata-Yanagimoto M, Onizuka M, Ishiwata K, Hasegawa Y, Ota S, Doki N, Nakamae H, Nishida T, Kawakita T, Sawa M, Tokunaga M, Ishimaru F, Fukuda T, Kanda Y, Atsuta Y, Nakasone H. Impact of haplo-donor age on transplant outcomes: a comparative analysis of haploidentical vs cord blood transplantation. *Blood Adv*. 2025 Jul 8;9(13):3226-3237.
17. Yoshimura K, Nakasone H, Tamaki M, Hosoi H, Kameda K, Uchida N, Doki N, Fukuda T, Yoshihara S, Mori Y, Nakamae H, Tanaka M, Katayama Y, Eto Hasegawa Y, Ota S, Takahashi S, Yoshimitsu M, Ishimaru F, Kanda J, Atsuta Y, Yakushijin K. Impact of Conditioning Intensity on Clinical Outcomes of Second Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Relapse After First Transplantation. *Am J Hematol*. 2025 Jul;100(7):1185-1195.
18. Okada Y, Kondo T, Miyazaki T, Shimazu Y, Minami Y, Ouchi F, Kako S, Tanaka M, Nishida T, Fujiwara SI, Uchida N, Nakamae H, Hasegawa Y, Kataoka K, Yano S, Sakata-Yanagimoto M, Ito A, Ishikawa J, Kanda Y, Kawamura K, Fukuda T, Atsuta Y, Tachibana T. Optimal Depth of the Treatment Response Before Allogeneic Hematopoietic Transplantation for Chronic Myeloid Leukemia in Chronic Phase. *Am J Hematol*. 2025 Aug;100(8):1440-1443.
19. Nakaya Y, Nakamae H, Nakasone H, Okamura H, Harada N, Kawamura K, Terakura S, Hasegawa Y, Eto T, Fukuda T, Hiramoto N, Nagafuji K, Ota S, Maruyama Y, Kawakita T, Matsuoka KI, Doki N, Kamimura T, Ando T, Akasaka T, Atsuta Y, Kanda J. Dose Effect of Antithymocyte Globulin or Post-transplant Cyclophosphamide in Haploidentical Peripheral Blood Stem Cell Transplantation: A Comparative Study. *Transplant Cell Ther*. 2025 Aug;31(8):544.e1-544.e5.
20. Kuno M, Tanaka T, Maeshima AM, Takamaru H, Kakugawa Y, Ito A, Inamoto Y, Kim SW, Fukuda T. Prognostic impact of histopathologic features

- including histological grading and immunohistochemistry-positive cell counts in cytomegalovirus-gastrointestinal disease after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Bone Marrow Transplant*.2025 Aug;60(8):1190-1192.
21. Kawamura K, Kanda J, Seo S, Kimura F, Hirayama M, Uchida N, Doki N, akeda W, Nishida T, Katayama Y, Tanaka M, Sawa M, Yoshihara S, Eto T, Kawakita T, Nakamae H, Ota S, Ishimaru F, Fukuda T, Atsuta Y, Kanda Y. Age-related differences in donor selection priorities for allogeneic hematopoietic transplantation. *Haematologica*.2025 Sep 11.
  22. Shimomura Y, Komukai S, Kitamura T, Yoshimura K, Inamoto Y, Akahoshi Y, Kuwatsuka Y, Usui Y, Uchida N, Tanaka M, Onizuka M, Sakata-Yanagimoto M, Doki N, Hasegawa Y, Ishiwata K, Nakamae H, Sawa M, Katayama Y, Kawakita T, Yoshimitsu M, Fukuda T, Kanda Y, Ohbiki M, Nakasone H, Kanda J. A win ratio approach for comparing graft-versus-host disease-free, relapse-free survival among alternative donors. *Br J Haematol* .2025 Sep;207(3):946-955.
  23. Teramoto M, Shimomura Y, Hosoi H, Yanada M, Mizuno S, Uchida N, Mori Y, Doki N, Takeda W, Katayama Y, Ota S, Nakamae H, Kuriyama T, Yoshihara S, Toyosaki M, Imada K, Sakata-Yanagimoto M, Onizuka M, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Konuma T. Survival outcomes and risk factors of second allogeneic hematopoietic cell transplantation in non-remission status for acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant*.2025 Sep;60(9):1275-1277.
  24. Fukushima T, Itonaga H, Sakamoto H, Takeda W, Tokunaga M, Kato T, Kuriyama T, Kawakita T, Fujioka M, Miyazaki Y, Uchida N, Mori Y, Nakamae H, Ogata M, Imada K, Onizuka M, Morichika K, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Fuji S, Yoshimitsu M; ATL Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. Prognostic Impact of Cytomegalovirus Reactivation After Transplantation From Cord Blood Compared to Other Donor Sources in Patients With Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma in the Pre-Letermovir Era. *Transpl Infect Dis* . 2025 Sep-Oct;27(5):e70070.
  25. Fujii S, Sakatoku K, Nakaya Y, Horiuchi M, Ido K, Makuuchi Y, Kuno M, Okamura H, Nishimoto M, Nakashima Y, Nakamae M, Hino M, Nakamae H. Mogamulizumab Concentration-guided Allogeneic Transplantation and Successful Intrathecal Chemotherapy for Central Nervous System-relapsed Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. *Intern Med*.2025 Oct 23.
  26. Yanada M, Yamasaki S, Mizuno S, Sugita J, Fujino T, Misaki Y, Tanaka M, Uchida N, Onizuka M, Doki N, Ota S, Sawa M, Kawakita T, Hasegawa Y, Nakamae H, Ishiwata K, Hiramoto N, Ishimaru F, Kanda J, Ohbiki M, Atsuta Y, Nakasone H, Konuma T. Comparison of single-unit umbilical cord blood transplantation and haploidentical transplantation using posttransplant cyclophosphamide during first complete remission of acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant* .2025 Oct 5.
  27. Hirakawa T, Yabe H, Hino M, Doki N, Yoshihara S, Ota S, Fukuda T, Nakamae H, Ishikawa J, Hasegawa Y, Nishida T, Asada N, Nishikii H, Kawakita T, Masuko M, Mori Y, Ando T, Ikeda K, Ohbiki M, Atsuta Y, Tsukada N, Yanagisawa R. Safety of hematopoietic stem cell donation from young related donors following the lowering of the age of legal adulthood in Japan. *Int J Hematol*.2025 Oct;122(4):572-582.
  28. Hiroyasu S, Fukumoto K, Nakashima Y, Akaji T, Itoh Y, Tsuruta D. IgA  $\lambda$ -Type Schnitzler Syndrome With Edema and Numbness. *The Journal of dermatology*.2025 Nov 16.
  29. Kuno M, Okayama Y, Yasui Y, Shibata W, Moriguchi M, Nakaya Y, Horiuchi M, Ido K, Sakatoku K, Makuuchi Y, Nagasaki J, Okamura H, Nishimoto M, Nakashima Y, Nakamae M, Yasui H, Kakeya H, Hino M, Nakamae H, Miyagawa H. Effects of routes, concentrations and genetic polymorphisms on posaconazole-tacrolimus interactions in allogeneic haematopoietic cell transplantation. *Br J Clin Pharmacol*.2025 Nov;91(11):3288-3296.
  30. Takahata S, Sakatoku K, Shiohara M, Nakaya Y, Horiuchi M, Ido K, Makuuchi Y, Kuno M, Okamura H, Nishimoto M, Nakashima Y, Nakamae M, Hino M, Nakamae H. Efficacy of ibritinib and diagnostic liver biopsy for idiopathic refractory ascites after allogeneic stem cell transplantation. *Int J Hematol*.2025 Dec;122(6):922-926.

#### 学会シンポジウム・招請講演

1. 久野雅智. Pros/Cons 2. ドナー選択の課題と展望 臨床シナリオを通じた ProCon 議論 代替ドナーの選択: 臍帯血 vs HLA ミスマッチバンク. 第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会. 大阪. 2025. 2. 28
2. 中倉洋輔. ワークショップ I. ハプロ移植以外の PTCy 移植の今後の展望. 第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 大阪市. 2025. 2. 28
3. Hirohisa Nakamae. JSH-EHA Joint Symposium. Prophylactic Use of Tyrosine Kinase Inhibitors After Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Philadelphia Chromosome-positive Acute Lymphoblastic Leukemia. 第 87 回日本血液学会学術集会. 神戸. 2025. 10. 10-12
4. Yasuhiro Nakashima. Japanese Experience with LR-MDS Management and guideline. The Hematology Society of Taiwan Lower Risk MDS Forum 2025. Taipei, Kaohsiung. 2025. 11. 1-2
5. 中前博久. 招請講演 7. CML 治療の進化が辿り着いた治療標的の真価. 第 123 回近畿血液学会. 大津市. 2025. 11. 8

#### プレナリーセッション

1. 井戸 健太郎. 血清細胞外小胞中マイクロ RNA による急性移植片対宿主病の臓器特異的な非侵襲的診断法の開発. 第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 大阪. 2025. 3. 1

## ②大阪市立総合医療センター

#### 学術論文

1. Real-world effectiveness and safety of ibritinib in patients with chronic lymphocytic leukemia in Japan: the Orbit study. 2025 Feb. Muta T, Masamoto Y, Yamamoto G, Kurahashi S, Kameoka Y, Ota S, Matsuki E, Ozeki K, Toyama T, Takahashi N, Kumode T, Aotsuka N, Yoshimura T, Tamura H, Omi A, Shibayama K, Watanabe A, Isobe Y, Kojima K, Takizawa J, Nagai H, Suzumiya J, Aoki S. *Int J Hematol*. 10.1007/s12185-024-03875-0. 121.2
2. CAR T or NK cells targeting mismatched HLA-DR molecules in acute myeloid leukemia after allogeneic hematopoietic stem cell transplant. 2025 Apr. Ikeda S, Hasegawa K, Kogoe Y, Arimori T, Kawamoto R, Wibowo T, Yaga M, Inada Y, Uehara H, Matsubara M, Tachikawa M, Suga M, Kida S, Shibata K, Tsutsumi K, Fukushima K, Fujita J, Ueda T, Kusakabe S, Hino A, Ichii M, Hirose A, Nakamae H, Hino M, Nakao T, Inoue M, Yoshihara K, Yoshihara S, Ueda S, Tachi T, Kuroda H, Murakami K, Kijima N, Kishima H, Igashira E, Murakami M, Takiuchi T, Kimura T, Hiroshima T, Kimura T, Shintani Y, Imai C, Yusa K, Mori R, Ogino T, Eguchi H, Takeda K, Oji Y, Kumanogoh A, Takagi J, Hosen N. *Nat Cancer*. 10.1038/s43018-025-00934-1. 6.4
3. Comprehensive assessment of DeVIC therapy for relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma. 2025 Nov 19. Nakaya Y, Yoshimura T, Hayashi T, Yoshida M, Hayashi Y, Nakao T. *Int J Hematol*. 10.1007/s12185-025-04104-y.
4. Diffuse Large B-Cell Lymphoma With Tracheoesophageal Fistula Healed Using Chemotherapy: A Case Report and Review of the Literature. 2025 Feb 13. Naoko Yagi, Takuro Yoshimura, Minako Tsutsumi, Takafumi Nakao. *Cureus*. 10.7759/cureus.78959. 17.2

#### 学会発表

1. 腋窩リンパ節腫大に対する針生検(VAB/CNB)の有用性. 池田 克実, 菅原 佳帆, 田村 佑梨, 坂井田 美穂, 井上 健, 中尾 隆文, 小川 佳成. 第 33 回日本乳癌学会学術集会. 2025. 7. 10
2. HLA 半合致同胞ドナーを用いた再移植が奏効した HIV 陽性 再発難治性急性リンパ芽球性白血病の一例. 八木 尚子, 吉村 卓朗, 堤 美菜子, 芦田 郷夢, 林 哲哉, 吉田 全宏, 林 良樹, 中尾 隆文. 第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025. 2. 27
3. ITP と重症筋無力症を合併した患者にエフガルチゲモドおよびその皮下注製剤を投与した 1 例. 宮本 淳, 吉田 全宏, 芦田 郷夢, 林 哲哉, 吉村 卓朗, 林 良樹, 中尾 隆文. 日本内科学会 第 248 回近畿地方会. 2025. 6. 28
4. 腹膜播種を認めたびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例. 小路 友啓. 日本内科学会 第 250 回近畿地方会. 2025. 12. 6

5. ABL1 の exon 4 欠失を伴った慢性骨髄性白血病に対してアシミニブが奏効した 1 例. 廣瀬奈穂美, 吉村卓朗, 山川佳苗, 曾我部信広, 林哲哉, 吉田全宏, 林良樹, 中尾隆文. 日本血液学会 第 123 回近畿血液学地方会. 2025. 11. 8

### ③ 済生会中津病院

#### 企業等の研究会発表

1. ビキセオス I 周年セミナー in OSAKA. 藤谷洋太郎. 日本新薬株式会社. 2025. 6. 13
2. エプキンリの部屋. 藤谷洋太郎. ジェンマブ株式会社/アッヴィ合同会社. 2025. 11. 11
3. Osaka Metropolitan Myeloma Conference 2025 (OMCC). 塩見一郎. サノフィ株式会社. 2025. 12. 12
4. ヴァンフリタの会. 小川 優美. 第一三共株式会社. 2025. 12. 17

### ④ 泉大津急性期メディカルセンター

#### 学術論文

1. Aspergillus versicolor Meningitis in a Patient With Refractory Acute Myeloid Leukemia After Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation. Naonori Harada, Naoki Hosaka, Akiko Tsumura. Transplant Infectious Disease.org/10.1111/tid.14438. 27. 2. 2025 March/April
2. Primary pancreatic diffuse large B-cell lymphoma, appearing as an asymptomatic bulky mass with the duct-penetrating sign. Naonori Harada. International Journal of Hematology . 10.1007/s12185-025-03964-8. 121. 5. 2025 May
3. Epstein-Barr ウイルス髄膜炎による中枢神経障害に対して cyclosporine が著効した医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患. 西島 誠, 原田 尚憲, 田添 久実代, 喜澤 佑介, 白神 大志, 藁谷 安津子. 臨床血液.org/10.11406/rinketsu.66.541.66.7.2025

#### 学会発表

1. Evaluation of the Prognostic Impact of Infused CD34 Positive Cell Dose in Haplo-Peripheral Blood Stem Cell Transplantation with Post-Transplantation Cyclophosphamide Using a Restricted Cubic Spline Curve. Naonori Harada, Hiroshi Okamura, Junya Kanda, Hiromi Hayashi, Yoshihiro Inamoto, Takahiro Fukuda, Noriko Doki, Satoshi Yoshihara, Naoyuki Uchida, Yuta Hasegawa, Yasuo Mori, Toshiro Kawakita, Tetsuya Nishida, Makoto Onizuka, Yoshiko Atsuta, Hirohisa Nakamae. 2025 Tandem Meetings. 2025. 2. 13
2. 輸注 CD34 陽性細胞数が haplo-PBSCCT with PTCY の予後へ与える影響の Restricted Cubic Spline Curve を用いた検討. Naonori Harada, Hiroshi Okamura, Junya Kanda, Hiromi Hayashi, Yoshihiro Inamoto, Takahiro Fukuda, Noriko Doki, Satoshi Yoshihara, Naoyuki Uchida, Yuta Hasegawa, Yasuo Mori, Toshiro Kawakita, Tetsuya Nishida, Makoto Onizuka, Yoshiko Atsuta, Hirohisa Nakamae. 日本血液学会 第 87 回日本血液学会学術集会. 2025. 10.
3. エルラナマブにより奏効を得た精巣再発形質細胞腫の一例. 堀尾 菜穂, 原田 尚憲, 西島 誠, 田添 久実代, 喜澤 佑介, 白神 大志, 藁谷 安津子. 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2025 大阪. 2025. 4. 19
4. 特発性血小板減少性紫斑病に対して Eltrombopag 使用中に脾梗塞を発生した 1 例. 藤田 亜衣利, 原田 尚憲, 出田 悠人, 田添 久実代, 喜澤 佑介, 白神 大志, 藁谷 安津子. 第 249 回日本内科学会近畿地方会. 2025. 9. 20
5. 成人 T 細胞性白血病リンパ腫に EBV 関連びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫を併発した 1 例. 濱田 慶有, 出田 悠人, 田添 久実代, 喜澤 佑介, 白神 大志, 原田 尚憲, 藁谷 安津子. 第 249 回日本内科学会近畿地方会. 2025. 9. 20
6. 再発急性リンパ性白血病に対して Ponatinib/Blinatumomab を導入し分子生物学的寛解を得た 1 例. 志摩 知菜津, 出田 悠人, 田添 久実代, 喜澤 佑介, 白神 大志, 原田 尚憲, 藁谷 安津子. 第 250 回日本内科学会近畿地方会. 2025. 12. 6

#### 企業等の研究会講演

1. Lymphoma Seminar In Osaka 2025. 西島 誠. ジェンマブ株式会社/アッヴィ合同会社. 2025. 2. 14
2. 第 1 回 Hematology Conference. 西島 誠. 大塚製薬株式会社. 2025. 3. 14
3. Ono Blood Cancer WEB Seminar. 原田 尚憲. 小野薬品工業株式会社. 2025. 2. 21
4. Osaka Malignant Lymphoma Useful meeting. 原田 尚憲. 中外製薬株式会社. 2025. 3. 12
5. 第 1 回 Hematology Conference . 原田 尚憲. 大塚製薬株式会社. 2025. 3. 14
6. Nursing Workshop. 原田 尚憲. 中外製薬株式会社. 2025. 4. 5
7. 泉大津医師会講演会. 原田 尚憲. ヤンセンファーマ株式会社. 2025. 4. 16
8. みなみへマトロジーセミナー. 原田 尚憲. ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社. 2025. 6. 5
9. セムブリックス発売 10 周年記念講演会. 原田 尚憲. ノバルティスファーマ株式会社. 2025. 7. 1
10. CAR-T Clinical Conference. 原田 尚憲. ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社. 2025. 7. 31
11. CAR-T for Multiple Myeloma Seminar. 原田 尚憲. ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社. 2025. 8. 27
12. Pfizer Multiple Myeloma Web Seminar. 原田 尚憲. ファイザー株式会社. 2025. 9. 5
13. Takeda Hematology Webinar. 原田 尚憲. 武田薬品工業株式会社. 2025. 9. 2
14. 血液がんを考える会 for pharmacist. 原田 尚憲. 中外製薬株式会社. 2025. 10. 30
15. エプキンリの部屋. 原田 尚憲. ジェンマブ株式会社. 2025. 11. 11
16. 希少造血器腫瘍を語る夕べ. 原田 尚憲. 小野薬品工業株式会社. 2025. 11. 14
17. OMMC. 原田 尚憲. サノフィ株式会社. 2025. 12. 12

### ⑤ 大阪鉄道病院

#### 学術論文

1. A phase 2 trial of CHOP with anti-CCR4 antibody mogamulizumab for older patients with adult T-cell leukemia/lymphoma. 2025 Sep 18. Makoto Yoshimitsu, Ilseung Choi, Shigeru Kusumoto, Mototsugu Shimokawa, Atae Utsunomiya, Youko Suehiro, Tomonori Hidaka, Kiyosato Nosaka, Hidenori Sasaki, Shinya Rai, Shinobu Tamura, Satsuki Owatari, Ki-Ryang Koh, Daisuke Nakamura, Masahito Tokunaga, Masaaki Sekine, Yuma Sakamoto, Hiroshi Inagaki, Takashi Ishida, Kenji Ishitsuka. Blood. 10.1182/blood.2024027902. 146. 12
2. Improving outcome prediction in indolent ATL by subdividing intermediate risk into low- and high-intermediate groups. 2025 Apr. Shigeo Fuji, Masahito Tokunaga, Atae Utsunomiya, Junya Makiyama, Youko Suehiro, Ki-Ryang Koh, Makoto Nakashima, Yoshihisa Yamano, Kaoru Uchimaru. Ann Hematol. 10.1007/s00277-025-06319-9. 104. 4
3. Development of a novel multiplex digital PCR-based method for the detection of HTLV-I proviral deletion. 2025 Feb. Kou Hiraga, Kenta Tezuka, Koh Nagata, Ki-Ryang Koh, Hitomi Nakamura, Yasuko Sagara, Rieko Sobata, Masahiro Satake, Michikazu Tanio, Hiroo Hasegawa, Masumichi Saito, Kiyonori Miura, Takuo Mizukami, Isao Hamaguchi, Madoka Kuramitsu. J Virol Methods. 10.1016/j.jviromet.2024.115071. 332. 115071
4. Vitamin B12 deficiency-induced massive schistocytosis and hemolytic anemia due to pseudo-thrombotic microangiopathy: a case report. 2025 Mar 19. Manabe M, Inano N, Hagiwara Y, Koh KR. Cureus. 10.7759/cureus.80855. 17. 3
5. Diffuse Large B-cell Lymphoma with a Multilobated Nuclear Morphology Harboring t(14;18)(q32;q21) and t(3;22)(q27;q11). 2025 Jul 15. Manabe M, Inano N, Hagiwara Y, Koh KR. Intern Med. 10.2169/internalmedicine.4719-24. 64. 14

- Multiple relapses of mantle cell lymphoma as different extranodal lesions: A case report.2025 Oct 31.Manabe M, Aohara D, Mukai D, Nanno S, Koh KR. Med Int (Lond). 10.3892/mi.2025.284.5.6
- 再発難治性移植非適応びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する Pola-BR 療法と R-DeVIC 療法の単施設後方的解析. 曾我部 信広, 南野智, 間部賢寛, 高起良. 臨床血液. 10.11406/rinketsu.66.1552.66.12
- 小球性貧血のため鉄欠乏性貧血を疑われて受診したが、ベトナム出身であることが診断の一助となった軽症型  $\beta$  サラセミア症例. 岩橋佑馬, 間部賢寛, 藤本智也, 萩原祐至, 向井大貴, 南野智, 高起良. 交通医学. 79.3-4

#### 学会発表

- 膀胱病変に起因した血尿がみられたメソレキセート関連リンパ増殖性疾患. 間部賢寛, 長野 祐樹, 奥野 高裕, 井上 健, 高起良. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2025.3.6
- 再発難治性の成人 T 細胞性白血病・リンパ腫(ATL)に対するソブゾキサン・エトポシド・ブレドニゾン療法の単施設後方的解析. 曾我部信広, 南野智, 間部賢寛, 高起良. 日本血液学会 第 87 回日本血液学会学術集会. 2025.10.11
- HTLV-1 キャリア外来における水平感染特異的抗体 Env197-IgG 抗体の解析. 高起良, 倉光球, 相良康子, 三浦清徳. 第 11 回日本 HTLV-1 学会学術集会. 2025.11.8
- 小球性貧血精査目的に受診し、血清鉄・フェリチン正常および HbA2 高値からサラセミアと考えられたベトナム人女性. 岩橋佑馬, 間部賢寛, 萩原祐至, 向井大貴, 南野智, 高起良. 第 122 回日本内科学会講演会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2025 大阪. 2025.4.19
- モガムリズマブ投与終了後にも効果が持続して得られた難治性 Sezary 症候群. 間部賢寛, 向井大貴, 南野智, 高起良. 第 122 回近畿血液学地方会. 2025.6.14
- 再発時に好酸性顆粒・好塩基性顆粒の双方を備えた細胞がみられた、細胞障害性治療歴のある急性骨髄性白血病. 間部賢寛, 萩原祐至, 向井大貴, 南野智, 高起良. 第 26 回日本検査血液学会学術集会. 2025.7.26
- 小球性貧血の精査目的に受診し、ホモ接合型ヘモグロビン E 症と考えられたミャンマー人症例. 森本真由, 間部賢寛, 向井大貴, 南野智, 藤本智也, 萩原祐至, 高起良. 第 249 回日本内科学会近畿地方会. 2025.9.20
- 胸水のセルブロック検体から診断に至った、分葉した核形態を呈したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫. 間部賢寛, 向井大貴, 南野智, 高起良. 第 123 回近畿血液学地方会. 2025.11.6
- 初発急性骨髄転化期の慢性骨髄性白血病の 1 例. 阪本成穂, 南野 智, 向井大貴, 間部賢寛, 高起良. 日本内科学会 第 249 回近畿地方会. 2025.9.20
- 早期胃癌および意義不明の単クローン性高ガンマグロブリン血症を合併した悪性リンパ腫症例. 坂本知子, 向井大貴, 南野智, 間部賢寛, 高起良. 日本内科学会 第 250 回近畿地方会. 2025.12.6

#### 企業等の研究会講演

- 令和 6 年度第 2 回 HTLV-1 三浦班会議 (AMED 三浦班). 高起良. AMED 三浦班(長崎大学). 2025.2.1
- 令和 7 年度第 1 回 HTLV-1 三浦班会議 (AMED 三浦班). 高起良. AMED 三浦班(長崎大学). 2025.7.19
- 令和 6 年度大阪府母子保健コーディネーター育成研修会. 高起良. 大阪府. 2025.1.24
- 令和 7 年度大阪府母子保健運営協議会. 高起良. 大阪府. 2025.12.12

## ⑥医療法人 LIGARE 血液内科・太田クリニック心斎橋

#### 学術論文

- Insights into very elderly multiple myeloma treatment from Kansai Myeloma Forum. Okayama Y, Takakuwa T, Shimura Y, Imada K, Kosugi S, Hotta M, Fuchida SI, Tanaka H, Uoshima N, Yoshihara S, Kanda J, Shibayama H, Fukushima K, Ohta K, Yagi H, Ito T, Shimazaki C, Matsumura I, Takaori-Kondo A, Hosen N, Hino M, Kuroda J. Hematology. 10.1080/16078454.2025.2496545. (1):2496545. 2025 Dec;30
- 化学療法・院内薬局・検査室を備えたクリニック. 太田健介. 内科. 136.4.2025.10.1
- クリニックでの造血器腫瘍診療の課題. 太田健介, 大橋晃太, 高桑輝人, 赤坂浩司, 中前博久, 日野雅之. 腫瘍内科. 35.5.2025.5.28

#### 学会発表

- 専門クリニックを介した新たな血液内科病診連携システム構築に向けて. 太田健介. 第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会(ランチョンセミナー 23・血液内科診療における地域医療連携 DX の取り組み). 2025.3.1

#### 企業等の研究会講演

- Multiple Myeloma Seminar in Funabashi. 太田健介. 武田薬品工業株式会社. 2025.1.31
- 多発性骨髄腫 Web 講演会. 太田健介. 武田薬品工業株式会社. 2025.2.25
- Pfizer Hemato-Oncology Internet Symposium ~Multiple Myeloma~. 太田健介. ファイザー株式会社. 2025.3.17
- Hematology 臨床/検査コラボセミナー. 太田健介. ノバルティス ファーマ株式会社. 2025.5.16
- 西日本真性多血症 Web セミナー ~真性多血症治療における細胞減少療法薬の使い分け~. 太田健介. ファーマエッセンシアジャパン株式会社. 2025.5.27
- 第 5 回 Myeloma Joint Meeting in Osaka. 橋内貴昭. サノフィ株式会社. 2025.6.11
- 真性多血症フォーラム in Osaka. 太田健介. ファーマエッセンシアジャパン株式会社. 2025.7.29
- 真性多血症フォーラム in Osaka. 橋内貴昭. ファーマエッセンシアジャパン株式会社. 2025.7.29
- Takeda Hematology Webinar. 太田健介. 武田薬品工業株式会社. 2025.9.26
- 血液がん(多発性骨髄腫)の患者さんとケアラーの声から考える これからのがんケア. 太田健介. ファイザー株式会社. 2025.11.1
- BeOne medicines Hematologist CrossTalk Seminar. 太田健介. ビーワン・メディシンス合同会社. 2025.11.12

## ⑦社会医療法人若弘会 若草第一病院

#### 学術論文

- Practical guidance on the clinical management of ocular adverse events associated with belantamab mafodotin in patients with relapsed/refractory multiple myeloma: Recommendations from a Japanese expert panel. Sunami K, Fujisaki T, Funaki T, Ichii M, Ito S, Matsumoto M, Oshima KI, Suzuki K, Takakuwa T. Jpn J Clin Oncol. 2025 Oct 6;hyaf148.
- 「血液疾患(造血器腫瘍)連携クリニックパス」を活用した拠点病院と地域医療との橋渡し. 高桑輝人, 岡山裕介, 太田健介, 中前博久, 日野雅之, 山中英治. 日本クリニカルパス学会誌. 2025;27(4):492-497.
- Insights into very elderly multiple myeloma treatment from Kansai Myeloma Forum. Okayama Y, Takakuwa T, Shimura Y, Imada K, Kosugi S, Hotta M, Fuchida SI, Tanaka H, Uoshima N, Yoshihara S, Kanda J, Shibayama H, Fukushima K, Ohta K, Yagi H, Ito T, Shimazaki C, Matsumura I, Takaori-Kondo A, Hosen N, Hino M, Kuroda J. Hematology. 2025 Dec;30(1):2496545.

#### 学会発表

- Complement involvements and issues in TA-TMA after allogeneic hematopoietic cell transplantation. Yusuke Okayama. 第 47 回 日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025.227-3.1
- EDTA 非依存性血小板凝集において EDTA 過剰添加採血管が有用である可能性. 細井悠介, 岡山裕介, 福山智子, 高桑輝人. 第 74 回 日本医学検査学会. 2025.5.10-11
- 関西骨髄腫フォーラム(KMF)13 年の軌跡. 高桑輝人. 第 50 回 日本骨髄腫学会学術集会. 2025.5.23-25

4. NDMMの腎機能と予後への寄与度-関西骨髄腫フォーラム後方視的研究-高桑輝人、堀田雅章、藤田真也、志村勇司、花本仁、吉原哲、芹澤憲太郎、淵田真一、松本忠彦、諫田淳也、河田英里、一井倫子、福島健太郎、伊藤量基、黒田純也、松村到、島崎千尋、高折晃史、日野雅之、保仙直毅.第50回日本骨髄腫学会学術集会.2025.5.23-25
5. Belantamab mafodotin, bortezomib, dexamethasone for RRMM: the DREAMM-7 Japanese expansion cohort.Tomoaki Fujisaki, Kohmei Kubo, Yasushi Hiramatsu, Ryosuke Ogawa, Shinsuke Iida, Takashi Ikeda, Hiromi Iwasaki, Shingo Kurahashi, Morio Matsumoto, Tomonori Nakazato, Kazutaka Sunami, Teruhito Takakuwa, Yotaro Tamai, Kazuki Tanimoto, Junichi Tsukada, Ryosuke Yamamura, Taku Fujii, Akira Endo, Hirofumi Nakano, Joe Lee.第50回日本骨髄腫学会学術集会.2025.5.23-25
6. 当院における再発難治多発性骨髄腫に対する elranatamab の使用経験.岡山 裕介、谷澤 直、相本 瑞樹、平井 学、太田 健介、高桑 輝人.第50回日本骨髄腫学会学術集会.2025.5.23-25
7. Belantamab treatment of multiple myeloma: Results from part I of the first-in-human phase I/2 DREAMM-20 trial.Hang Quach, Bradley Augustson, Linda Barton, Edvan de Queiroz Crusoe, Jeffrey S.Y. Huang, Vania Hungria, Marek Hus, Karthik Ramasamy, Teruhito Takakuwa, Dok Hyun Yoon, Rupam Pal, Shreyan Banerjee, Hari Narayan, Wei Sun, Malika Ahras, Seema Shafi-Harji, Sarantos Kaptanis, Giulia Fulci, Brandon Kremer, and Chang-Ki Min. ASCO(American Society of Clinical Oncology) Annual Meeting.2025.5.30-6.3
8. BELANTAMAB FOR THE TREATMENT OF MULTIPLE MYELOMA: RESULTS FROM PART I OF THE FIRST-IN-HUMAN PHASE I/2 DREAMM-20 TRIAL.Hang Quach, Bradley Augustson, Linda Barton, Edvan Crusoe, Jeffrey Huang, Vania Hungria, Marek Hus, Karthik Ramasamy, Teruhito Takakuwa, Dok Hyun Yoon, Elisabet Manasanch, John Clements, Xiangdong Zhou, Rupam Pal, Shreyan Banerjee, Hari Narayan, Wei Sun, Malika Ahras, Seema Shafi-harji, Sarantos Kaptanis, Giulia Fulci, Brandon E. Kremer, Chang-Ki Min.30th EHA(European Hematology Association) Congress.2025.6.12-15
9. 造血器腫瘍患者のシームレスなリハビリテーション提供体制の構築に向けた法人内施設間連携.熊谷綾太, 玉村悠介, 松浦道子, 朝川弘章, 岡山裕介, 高桑輝人.第75回日本病院学会.2025.7.24-25
10. 芽球に幼若赤芽球抗原を発現した骨髄異形成関連変化を伴う急性骨髄性白血病(AML-MR)の一例.細井悠介、岡山裕介、福山智子、高桑輝人.第26回日本検査血液学会学術集会.2025.7.26-27
11. 同種造血幹細胞移植の進化と将来展望.日野雅之.第33回日本組織適合性学会大会.2025.10.3
12. Real-world efficacy of isatuximab, carfilzomib, and dexamethasone in RRMM: KMF database analysis.Kentaro Serizawa, Masaaki Hotta, Shinya Fujita, Yuji Shimura, Tadahiko Matsumoto, Junya Kanda, Satoshi Yoshihara, Shin-ichi Fuchida, Eri Kawata, Hitoshi Hanamoto, Michiko Ichii, Kentaro Fukushima, Yosuke Nakaya, Teruhito Takakuwa, Tomoki Ito, Junya Kuroda, Akifumi Takaori-Kondo, Chihiro Shimazaki, Masayuki Hino, Itaru Matsumura, Naoki Hosen.第87回日本血液学会学術集会.2025.10.10-12
13. An autopsy case of CPX-351-resistant AML-MR with immature erythroid antigen positivity.Takahiro Sunano, Yusuke Okayama, Yusuke Tanada, Masayuki Hino, Teruhito Takakuwa.第87回日本血液学会学術集会.2025.10.10-12
14. Colitis as an immune-related adverse event of elranatamab in a refractory plasma cell leukemia.Yusuke Tanada, Yusuke Okayama, Masayuki Hino, Teruhito Takakuwa.第87回日本血液学会学術集会.2025.10.10-12
15. 造血器腫瘍領域の化学療法を担う薬剤師によるバス作成と運用評価.加藤真由美、今堀友紀、棚田悠介、岡山裕介、山中英治、日野雅之、高桑輝人.第25回日本クリニカルバス学会.2025.10.17-18
16. 造血器腫瘍における地域医療連携プラットフォームの構築と活用.高桑輝人、多田雄真、中舎洋輔、太田健介、小曾根南美、山本薫、中前博久、日野雅之、横田貴史.第25回日本クリニカルバス学会.2025.10.17-18
17. 血液腫瘍患者における退院時ADLと身体および呼吸機能との関連.熊谷綾太、玉村悠介、米谷正樹、高桑輝人.第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会.2025.10.23-25

#### 企業等の研究会講演

1. Multiple Myeloma workshop 2025.高桑輝人.小野薬品株式会社.2025.1.28
2. 社内研修会.高桑輝人.中外製薬株式会社.2025.1.31
3. CL Online.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.2.5
4. Multiple Myeloma Expert Webinar in Kagawa 2025.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.2.6
5. Lymphoma Seminar in Osaka 2025.高桑輝人.ジェンマブ株式会社.2025.2.14
6. Multiple Myeloma Breaking Studio.高桑輝人.小野薬品株式会社.2025.2.18
7. Pfizer Hemato-Oncology Symposium in Asahikawa.高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.2.20
8. ONO Blood Cancer WEB Seminar.高桑輝人.小野薬品株式会社.2025.2.22
9. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会 ランチョンセミナー23.高桑輝人.SCSK.2025.3.1
10. 『多発性骨髄腫』(血液がん)を知らう!高桑輝人.Johnson&Johnson.2025.3.16
11. Pfizer Hemato-Oncology Symposium.高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.3.25
12. Multiple Myeloma Web Seminar.高桑輝人.Johnson&Johnson.2025.3.26
13. CSL Behring Web Seminar.高桑輝人.CSL ベーリング株式会社.2025.4.4
14. Pfizer Multiple Myeloma Web Symposium.高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.4.9
15. Novartis Hematology Web Seminar Short Lecture.日野雅之、ノバルティスファーマ株式会社.2025.4.9
16. 血液移植セミナー(協和キリン) 特別講演.日野雅之、協和キリン株式会社.2025.4.11
17. Pfizer Multiple Myeloma Symposium.高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.4.16
18. サークリサ Online.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.5.12
19. 枚岡医師会学術講演会.高桑輝人.中外製薬株式会社.2025.5.20
20. Advisory Board Meeting for Treatment Strategy of TE/TIE.高桑輝人.Johnson&Johnson.2025.5.25
21. FUKUSHIMAMyeloma Seminar "IsaVRd 療法の役割を考える".高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.5.29
22. Multiple Myeloma Experts Seminar.高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.5.31
23. ジャカビ錠発売 10周年記念講演会 in Osaka.高桑輝人.ノバルティスファーマ株式会社.2025.6.4
24. 研修医・若手血液内科医のための血液学セミナー2025.高桑輝人.協和キリン株式会社.2025.6.6
25. サークリサ Onsite 2025 in TOKYO.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.6.7
26. 第5回 Myeloma Joint Meeting in Osaka.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.6.11
27. 第5回 尾張ベイエリア血液セミナー.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.6.13
28. ~エプキリの部屋~ 第10回.高桑輝人.ジェンマブ株式会社.2025.6.24
29. Pfizer Multiple Myeloma Symposium.高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.6.25
30. Pfizer Multiple Myeloma Symposium.高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.7.7
31. 2025年度 第1回造血細胞移植合同班会議.日野雅之.班会議.2025.7.12]
32. CL Online.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.7.15
33. 社内研修会.高桑輝人.中外製薬株式会社.2025.7.29
34. Myeloma Symposium in KANSAI.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.7.30
35. Multiple Myeloma Seminar.高桑輝人.Johnson&Johnson.2025.7.31
36. Pfizer Multiple Myeloma Web Symposium.高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.8.14
37. 希少造血器腫瘍を考える会.高桑輝人.小野薬品株式会社.2025.9.1

38. One Team Seminar.高桑輝人.ジェンマブ株式会社.2025.9.3
39. Hematology Conference 2025.高桑輝人.小野薬品株式会社.2025.9.4
40. Myeloma Forum 2025.高桑輝人.Johnson&Johnson.2025.9.6
41. The Cutting Edge of Multiple Myeloma.高桑輝人.小野薬品株式会社.2025.9.11
42. 第74回神戸血液病研究会 特別講演.日野雅之.中外製薬株式会社.2025.9.13
43. 熊本血液・免疫フォーラム.高桑輝人.Johnson&Johnson.2025.9.16
44. HYOGO Hematology Seminar.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.9.18
45. Myeloma Round Table meeting 2025 Autumn.高桑輝人.Johnson&Johnson.2025.9.20
46. 第87回日本血液学会学術集会 ランチョンセミナー2-4.高桑輝人.小野薬品株式会社.2025.10.11
47. 第25回日本クリニカルバス学会学術集会 ランチョンセミナー.高桑輝人.SCSK.2025.10.18
48. サークリサ Online NP.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.10.24
49. 中河内血液疾患セミナー.高桑輝人.中外製薬株式会社.2025.11.6
50. 第123回近畿血液学地方会 共催セミナー (招請講演3).高桑輝人.ファイザー株式会社.2025.11.8
51. MPN Expert Webinar.岡山裕介.ファーマエッセンシア.2025.11.11
52. BeOne medicines Hematologist CrossTalk Seminar.高桑輝人.ビーワン・メディシズ合同会社.2025.11.12
53. CL Online.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.11.13
54. CL Online.岡山裕介.サノフィ株式会社.2025.11.13
55. 希少造血器腫瘍を語る夕べ.高桑輝人.小野薬品株式会社.2025.11.14
56. 音楽イベント いのちのステージ ~となりにいるよ~.日野雅之.患者会.2025.11.16
57. Malignant Lymphoma Seminar.高桑輝人.日本新薬株式会社.2025.11.20
58. Hematology Scientific Exchange Meeting.高桑輝人.アストラゼネカ株式会社.2025.11.28
59. 大阪血液地域医療連携セミナー.高桑輝人.ノバルティスファーマ株式会社.2025.12.3
60. 血液がん研究会 How we treat.加藤真由美.Johnson&Johnson.2025.12.5
61. RWD から考えるMDSセミナー.岡山裕介.プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社.2025.12.11
62. Osaka Metropolitan Myeloma Conference 2025.高桑輝人.サノフィ株式会社.2025.12.12
63. Multiple Myeloma Seminar.高桑輝人.Johnson&Johnson.2025.12.17
64. 2025年度 コーディネーターブラッシュアップ研修会「ベグフィルグラスチムの有害事象について」.日野雅之.公開講座.
65. 2025年度 コーディネーターブラッシュアップ研修会「ドナー安全講習」.日野雅之.公開講座.

## 編集後記

今回、同門会誌の編集を担当いたしました。ご寄稿いただいた先生には改めて御礼申し上げます。目まぐるしく移り変わる時代の中で先代日野教授から中前博久教授にバトンがわたり、伝統を礎に大阪公立大学グループのさらなる飛躍が期待される中、皆様方におかれましてもそれぞれの目標が叶いますことを祈念しております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

長崎 讓慈

発行 大阪公立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学同門会  
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3